

# 現代科学技術の歴史的構造の 我が国における様相の解明

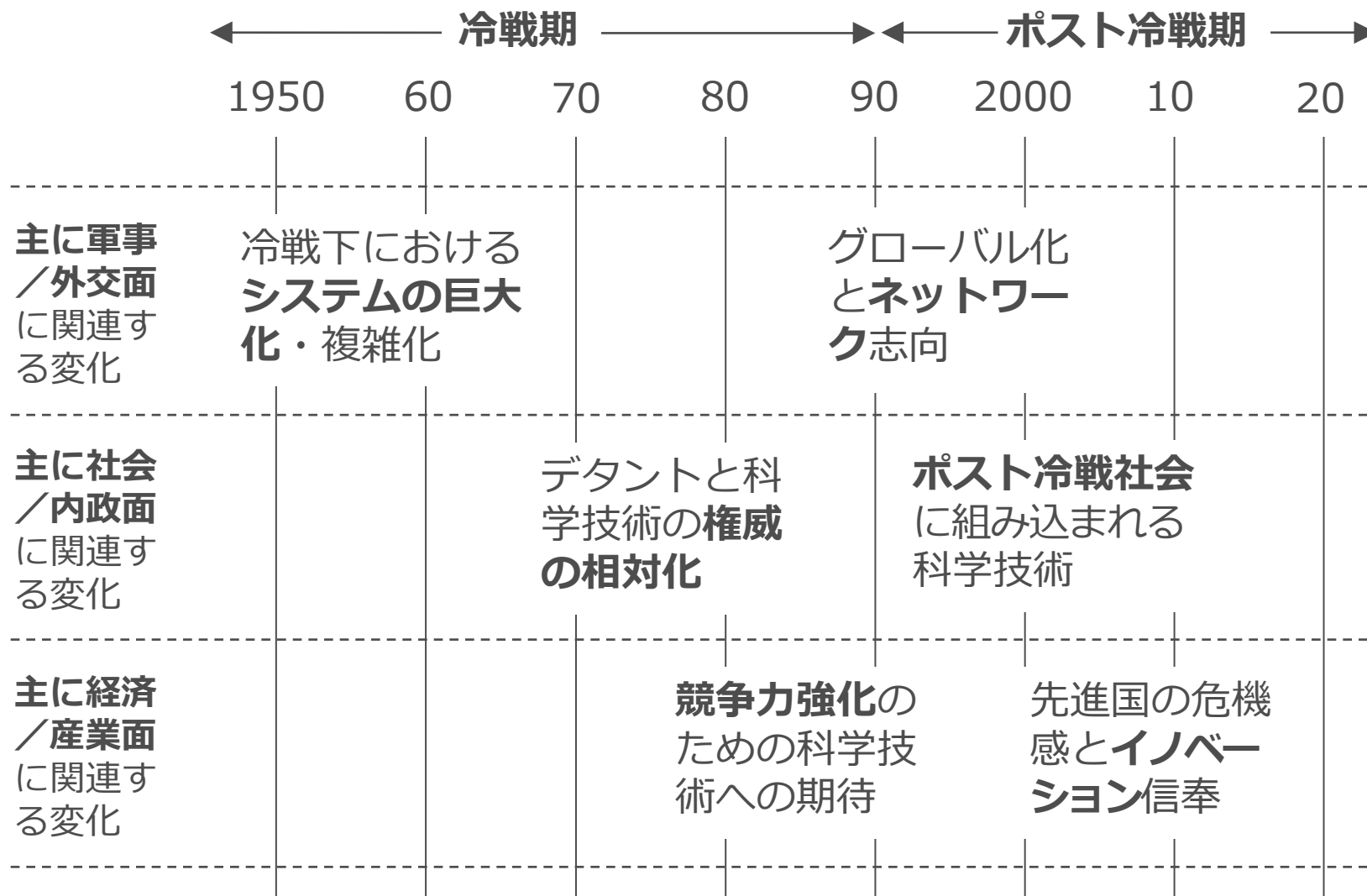
## 研究概要

日立財団倉田奨励金人文・社会科学研究所シンポジウム

2023年3月18日

佐藤靖（新潟大学）

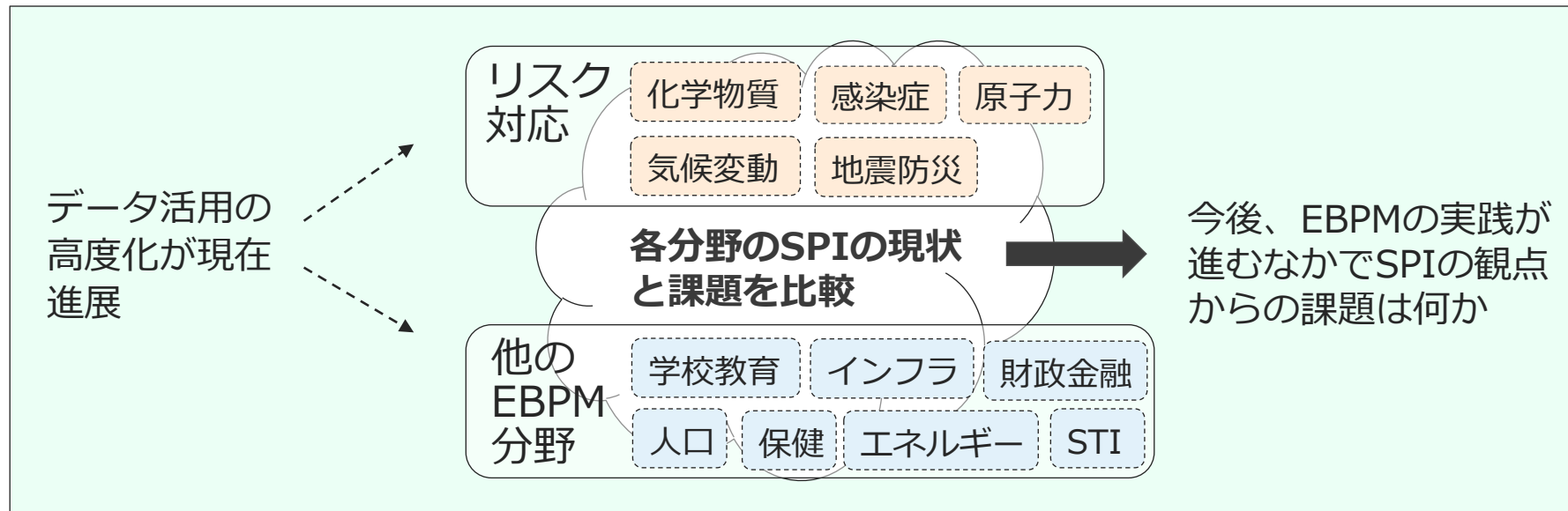
# 第2次世界大戦以降2010年代までの科学技術の潮流



# 現代科学技術を支える基盤は時代とともに変容してきた

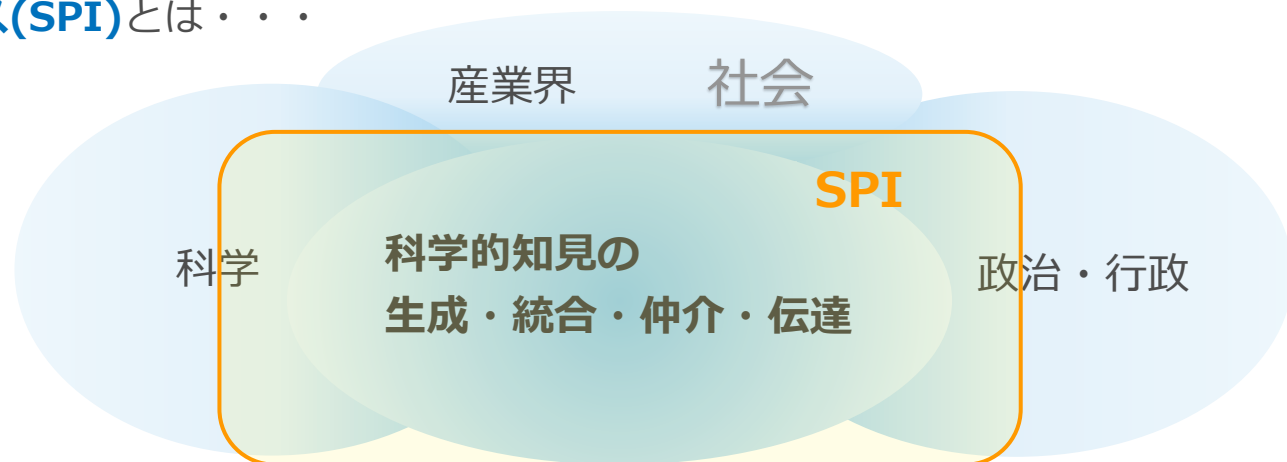
過去に科学技術を成り立たせていた基礎的要因		
(組織体制の側面)	(正当性・信頼の側面)	(需要・期待の側面)
軍産複合体	科学者・技術者の権威	軍事力・国家威信
<p>■</p> <p>軍産複合体の縮小 民間企業の役割拡大</p> <p>■</p> <p>知的財産の国際的保護 国際標準化</p> <p>↓</p>	<p>■</p> <p>科学の不確実性の露呈 科学の権威の相対化</p> <p>■</p> <p>財政再建の要請 費用対効果の追求 手続きから結果重視へ</p> <p>↓</p>	<p>■</p> <p>冷戦構造の崩壊 グローバル化・多極化</p> <p>■</p> <p>社会的貢献への期待</p> <p>↓</p>
近年の科学技術を成り立たせている重要な要因		
国際連携ネットワーク 産学・軍民の境界消失	<b>リスク評価・EBPM 市民などの参画</b>	競争力 イノベーション
<p>(関連する要素)</p> <p>オープン化 モジュール化 デュアルユース化 パーソナル化</p>	<p>(関連する要素)</p> <p>実証的データの重視 科学と政府の協働 社会的文脈への配慮</p>	<p>(関連する要素)</p> <p>分野融合 民間企業の役割拡大 科学研究の経済事業化 研究者の定量的評価</p>

# 科学－政策インターフェース(SPI)の分野横断的比較研究



## 科学－政策インターフェース(SPI)とは・・・

単なる科学と政策の関係性ではなく、**組織体制とプロセスの動的エコシステム**。科学的エビデンスの円滑なやり取りと社会的価値観の考慮によって複雑な政策課題の議論に貢献する。



# SPIの現状と課題

- 各分野でSPIが有効に機能するための**プロセスと組織体制の確立**が求められている。

科学的知識の  
**生成**  
Generator

科学的知識の  
**統合**  
Synthesizer

科学的知識の  
**仲介**  
Broker

科学的知識の  
**伝達**  
Communicator

## **(1)データの確保・集積**

→ 行政が民間組織やローカルな組織を含め多様な組織と連携を強化し、協働してデータを確保・集積する。

## **(3)エビデンスから意思決定を導出**

→ エビデンスが不十分な際にも意思決定を導く方法論を確立し、多様なステークホルダーと調整しつつ政策立案を行う。

## **(2)多様なエビデンスの生成と統合**

→ 多様なモデルの妥当性・信頼性を評価しつつデータ分析を行い、多様な専門知・実践知に照らして解釈し、エビデンスを統合する。

## **(4)社会との対話**

→ EBPM の透明性を高め、必要な場合は専門家も社会と対話し、各層に受容される政策を共創する。